

2011年7月21日

アメリカ合衆国大統領  
バラク・H・オバマ 殿

日本原水爆被害者団体協議会

## 臨界前核実験に抗議する

アメリカ政府は、昨年12月と今年2月の2回、ネバダ核実験場で臨界前核実験を行なったことを明らかにした。

オバマ政権下では3回目、通算では、1997年7月以来26回目の臨界前核実験だと報道されている。

われわれ原爆被爆者は、核兵器の開発、保全につながるいかなる核実験も行なうな、実験を重ねるのではなく核兵器の廃絶に取り組めと要求し、幾たびも要請を重ねてきた。これを無視する今回の実験強行に、われわれは厳しく抗議する。

アメリカ政府は、「保有する核兵器の安全性と信頼性を維持するため」といい、「核実験全面禁止条約（CTBT）の対象外」と言っているが、核兵器の信頼性を確かめるということは、核兵器の開発・使用を前提にしたものであり、被爆者は決して容認することができない。

オバマ大統領は、「核兵器のない世界」の実現をめざすと高らかに宣言しノーベル平和賞まで受けた。その大統領の下で核兵器増強予算が組まれ、昨年から2回にわたるZマシンによる検証実験に成功したことを明らかにした。最近のこれらの実験は事前に公表することなく、実験後に国家核安全保障局の報告書に掲載しただけである。このような対応からは「核兵器のない世界」をめざす貴職の意欲も感じ取ることができない。

われわれ原爆被爆者は、要求する。

1. 臨界前核実験は、核抑止力による威嚇の維持を誇示するものであり、容認できない。
2. 核兵器廃絶条約の締結に向けて主導性を示すこと
3. 核兵器の事故、テロリストに渡る危険性が叫ばれている今日、速やかな廃絶を求める。